

# 第2回 首里城復興方針に関する有識者懇談会の概要について

- 1 日時:令和2年2月13日(木)13時00分～16時00分 (場所:首里杜館1階 情報展示室)
- 2 出席者:8名 1. 安里 昌利(那覇空港ビルディング(株)／代表取締役社長) 2. 池田 孝之(国立大学法人琉球大学／名誉教授)
3. 下地 芳郎((一財)沖縄観光コンベンションビューロー／会長) 4. 崎山 律子(那覇市文化協会／会長)
5. 佐久本 武((一社)那覇市観光協会／会長) 6. 田名 真之(沖縄県立博物館・美術館／館長)
7. 玉那覇 美佐子(首里振興会／理事長) 8. 波照間 永吉(名桜大学／教授)

## 3 主な意見

主な議題	主な意見
1 「対象エリア」について	<ul style="list-style-type: none"><li>「首里杜構想」に含まれているが整備が進んでいない部分(中城御殿、円覚寺、松崎馬場など)があるので、交通体系の問題も含めてなぜ進展していないのか整理する必要がある。</li><li>首里地区の歴史的な町並みを保存していくことは重要</li><li>「首里杜構想」をベースにししながら、時代に合った新たな構想が必要</li></ul>
2 「琉球文化の復興」について	<ul style="list-style-type: none"><li>「独立国家であったこと」「島嶼県であること」「沖縄戦」が沖縄文化の独自性につながっている。</li><li>文化を復興させるためには息の長い取組が必要であることを認識する必要がある。</li><li>民俗文化は、時代の変化に合わせて残ってきたという現実もあるので、時代にあった新しい文化をつくりあげるといった気概が必要。</li></ul>
3 「伝統技術とは」について	<ul style="list-style-type: none"><li>技術を伝承していくには紅型、芭蕉布、漆器などの工芸品をビジネスにつなげていく視点も必要。</li><li>伝統工芸品もライフスタイルに合わせ、現代生活に受け入れられるような工夫が必要。</li><li>伝統技術を支える道具や材料をどう確保するかも重要である。</li><li>人材育成の面においては、県立芸大や工芸振興センターの役割が重要である。</li></ul>
3 その他	<ul style="list-style-type: none"><li>首里城周辺の交通渋滞を解消するためには、混雑時間帯を分散させるという視点が必要。</li><li>第32軍司令部壕については、一般公開が困難な状況ということであれば、トーチカなど部分的な公開など、歴史的遺産群の一つとして活用するが難しいのか。</li><li>県民の関心を継続させていくためには、従来型の行政主導による取組ではなく、ネットワーク型で広く住民が主体的に参加できるような組織や取組が必要。</li></ul>